

# 【奈良文化幼稚園】令和5年度 学校評価 自己評価書 I 教育活動に関するもの

教育目標	1. 健康で 元気に 満ちた 子どもに育てる。 2. 感受性や 創造性の 豊かな 子どもに育てる。 3. ひとり立ちができ 誰とでも仲良く遊べる 子どもに育てる。
------	---

項目ごとの評価(中・小項目とも)4段階評価 A:極めて達成度が高い B:概ね達成できている C:課題を残している D:課題が多く速やかな改善が必要

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の観点・理由	課題及び改善
I 教育活動に関するもの	(1) 教育目標・教育計画・教育課程	①教育目標の設定	園の教育理念や教育方針を理解し、共有できたか。	「遊びこそ学び」を理念に、「心と体」を育む教育を0歳児から5歳児まで行い、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の実現に向けた取り組みを行った。	B	A	日々の園生活を通して、保育課程と教育課程が協力して、一人ひとりの育ちが深められるよう職員が話し合い、情報共有を行う。	保育課程と教育課程が連携し、園児の様子を共有し、取り組みを進める。園生活の様子をバスキヤッシステムを通じて引き続き保護者に発信したい。
		②教育計画の作成	園の方針を教育計画や保育に活かし、遊びの環境を充実させる。	園庭環境は、子どもの動きに合わせて、調整を続けた。腐葉土を混ぜたり燻炭をいれたりして、ふかふかの土づくりを行った。講師先生の指導を受けて環境を整えた。	A		よりよい環境になるよう講師先生の指導を受けた。さらに、教員それぞれがアイデアを出すことで、よりよい環境になるよう努める。	園庭環境は、経年劣化による改良が必要になる。専門家を含めたプロジェクトチームを編成した。アドバイスをもとに環境整備をさらに進めたい。
		③教育要領に基づいた教育課程の編成	発達の特性を踏まえ、園生活全体を通して具体的なねらいと内容の作成ができたか。	「わんぱくの森」の活動を中心に行き、各学年の発達に応じた取り組みを進め、教育要領に基づいた保育課程と教育課程の指導計画編成を行った。	A		職員間で、話し合いを密にして園児の実態を把握し、発達段階に即した指導計画の実現に取り組んだ。	実態を知ることで、園児の発達について把握できるようになった。今後も、丁寧な保育を心がけ、意欲的に活動させたい。
		④教育活動の評価	園の目指す幼児の姿を具体的に共有し、教育活動を行ったか。	園児一人ひとりの姿を年齢ごとに把握し、園全体の教育活動を見直すことで職員の理解をより深く進めることができた。	A		クラスや学年の教育活動の中で毎年のやり方にとらわれず園児のがのびのびと活動を行うことができたか。	子どもの実態から新しい試みができるよう園全体で話し合いを続けてきた。今後も研修を進めていきたい。
		①基本的な生活指導	自分の体を守るための生活習慣が身につくように指導する。	園児が気持ちよく生活できるよう取り組んだ。さらに、家庭との連絡を密にして園での様子を伝えることで信頼関係ができるよう取り組んだ。	A		園児が生活を意識し、習慣づけることができるよう実践を行った。写真付きのおたよりを作成し、個人の様子や育ちを保護者と共有した。	生活習慣の目標を家庭と共有することで、園と家庭が共に実践し共有できるようにしたい。
		②環境を通して行う活動の充実	見通しを持って環境改善を行い0歳から5歳児まで年齢に応じた活動の展開を考え環境を構成することができたか。	年齢に応じて子ども達が遊びたいと思う環境を作り、興味・関心が増え、活動が活発になるよう環境を工夫した。	B		1人ひとりが遊びこめる環境を整え、興味・関心を持って活動できる環境づくりを心がけた。	クラスや学年・年齢に応じた取り組みを園全体に広げる。さらに活動に活動範囲が広がるような環境を考える。

I 教育活動に関するもの  (2) 指導の状況	③個や発達段階に応じた指導	一人ひとりの実態や内面を理解し、指導を展開する。	園児一人ひとりを複数の職員で見つめ、発達状況を把握することで、個人に合った指導を考えることができた。	A	個々の成長や発達に応じた指導のあり方を考えた。計画を実践に移すことで成長が感じられようになった。	全教職員が子どもの発達段階を見つめ、連携を通じて一貫した指導ができるよう研修を深めたい。
	④遊びを通しての総合的な指導	幼児が主体的に活動したり、充実感を味わったりできるような指導を行うことができたか。	子ども達の興味・関心を把握し、子どもが自ら考えたり、試したりすることができる遊びを取り入れることができた。	B	自分で遊びを考え、自由遊びができるように取り組みを進めたい。教員が一人ひとりの姿を読み取る力が向上するよう研修を深めたい。	
	⑤園行事	園児主体の行事運営ができたか。	園行事を新型コロナ前の状態に少しずつ戻す努力を行った。保護者出席のお誕生日会、コーラス部の活動も実施した。保育参観や音楽会、卒園式も参観人数を増やして行うことができた。	A	保護者出席の行事を増やし、お誕生日会や保育参観・敬老参観など園の様子がわかるような行事を実施した。	保護者の理解が得られるように園行事を工夫し、開かれた幼稚園を目指していきたい。
	⑥体力作りを目指す取り組み	健康元気給食の実施により健康な体作りを目指すとともに、子どもを夢中にさせる運動遊びを展開する。	毎週の体育遊びの取り組みから日々の遊びも広がりが見られるようになった。健康元気給食の実施により、よく噛みよく食べる習慣をつけることができた。	A	食事によって健康な体作りに目を向けるとともに日頃の遊びを見直した。子ども達が積極的に体を動かす姿が見られた。	よく噛み、よく食べる習慣を続けていくことが大切である。講師先生による研修を実施し、体作りについて、職員の力量の向上に努めたい。
	⑦地域での教育活動の充実	地域とのつながりを保育に活かすことができたか。	葛城市の幼稚園との交流を行い、和太鼓や園庭遊びを楽しんだ。みどりの幼稚園では地域の公園に出かけた。	A	地域の人や地域の幼稚園との交流する機会を持つことにより理解が深まり、本園を知っていただききっかけとなつた。	来年度は、葛城市的幼稚園や小学校との交流を行いたい。みどりの幼稚園や園外学習で、地域に出かける機会をもっと増やしていく。
	⑧夢中になって遊び込み、意欲の育つ遊びの充実	質の高い遊び環境を設定し、自由に選択する機会を保証したか。	遊びの動線を見直し、遊ぶ環境を整えた。園庭の土の改良を行い、園児がのびのびと自由遊びができる内容を目指した。	A	玩具の数や置き場所も工夫した。園庭の土の改良の行いふかふかの園庭を作ったか。職員が自分なりの目標を持って、環境を作ったか。	自然環境の中で子ども達が生き生きと活動できるように、園庭の土の配合を考え環境を整えていきたい。
	⑨絵本やおはなしに親しむ取り組み	絵本やおはなしを1日1回読み聞かせをすることで子ども達が楽しむ機会がつくれたか。	保育時間に絵本と触れる時間を設けることで、絵本への興味が広がった。1日1冊以上読み聞かせを行い、絵本の面白さを知ることで絵本の貸し出し数が増加した。	A	読んだ本を読書カードに記入することで、自分の頑張りが見え、絵本に親しむことができた。本園は、様々な絵本が豊富に用意されている。園児にとって良い環境である。	保護者に絵本の修理をしていただけ、園児に人気のほんがよみがえった。今後も、よりよい絵本の精選に努めたい。
	⑩特別支援体制の充実	教職員間で支援が必要な子どもについての実態や課題について共通理解できる体制づくりができたか。	臨床心理士の先生による行動観察とカンファレンスを行い支援の在り方について検討した。療育の担当者と連絡をとり、園児にあつた支援が行えるようにした。	A	配慮が必要な園児の実態を職員全員が把握できているか。情報交換を密にし、その子に合った配慮を行った。	全職員が個々の配慮について共通理解を行った。支援が必要な園児が増えているので共通理解が必要である。

## 【奈良文化幼稚園】令和5年度 学校評価 自己評価書 II 幼稚園経営に関するもの

項目ごとの評価(中・小項目とも)4段階評価 A:極めて達成度が高い B:概ね達成できている C:課題を残している D:課題が多く速やかな改善が必要

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の観点・理由	課題及び改善
II 学校経営に関するもの	(1) 組織運営	①組織の一員としての在り方	目標を共有し、分業と連携を効果的に行い、成果をあげる。	認定こども園になり、行事も増加した。それぞれの役割を分担し全員が新しい気持ちで意欲的に活動することができた。	B	A	全職員が連携を深め、保育に取り組むことができたか。行事を進めるにあたってそれぞれが分担して手際よく準備を行うことができたか。	職員数が増えたことによりお互いのコミュニケーションをとることが難しくなった。今後、園児一人ひとりを見つめさらに充実した保育を行っていきたい。
		②幼稚園経営目標・方針	具体的な経営目標、実態、数値目標について、共通認識ができ、募集活動を積極的に行う。	コロナ禍による少子化で募集が難しくなっている。入園希望者が増えるよう細やかな保育、中身の濃い取り組みを進めていきたい。	A		認定こども園に移行しクラス数を減少させた。保護者の希望に沿った保育ができているか。	認定こども園になり園児の在園時間が増えた。園での楽しさや保育の様子、教育的意義を伝えて保護者のニーズにあった保育を心がけていきたい。
		③教職員の適正配置と職員の運営への協力意識	園長や主任に報告・連絡・相談を行い、協力し実行しているか。	クラス担任と補助の職員が連携し報告・連絡・相談を密に保育に取り組んでいる。教職員が深く意識して業務にあたることができた。	A		全教員が連携を深め、同じ歩調で園運営を進めることができたか。保育者が休むことがあっても無理なく保育ができたか。	職員会議での話し合いを通じて各自が共通理解を行い、情報の共有を意識して保育を行わなければならない。
		④園務分掌等の連携	各委員会、係で必要に応じて協議・分担して、効率よく運営を進めているか。	園務が増えたが協力して業務を行った。初めて経験する内容もあったが、全員が協力して精一杯取り組んだ。	A		分掌の内容を各自が把握しスムーズに処理することができたか。保育に対して事前準備を十分に行っていったか。	教職員全員が同じ対応ができるように研修を深めることが重要である。不足している部分については、お互いが協力し、補う体制を整えなければならない。
		⑤会議の運営と位置づけ	認定こども園初年度あり、会議の回数も増えているが、効率の良く会議を行っているか。	職員会議の時間短縮ができるよう協議の内容をあらかじめ知らせた。会議後は、全員が内容を理解できるよう会議録のメール配信を行った。	B		会議の内容について、全員が理解できているか。全員の意見交流が活発になったいるか。	認定こども園の協議事項については会議の時間がのがることもあったが、各自が内容把握に努めるよう協力を求めた。2年目以降は初年度の経験を生かして取り組んでいきたい。
		⑥職場の人間関係	職員数が増えたが、職員間でのコミュニケーションが図られているか。	保育研修の時間や放課後のわずかな時間を通して園児の様子を語ることができた。	A		年齢構成を超えて職員同士が保育の楽しさを語りあつたか。一人ひとりが、多くの視点から教育を見つめることができたか。	お互いが積極的な意見交換ができるような職場づくりを目指し取り組みを進めていきたい。

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の観点・理由	課題及び改善
II 学校経営に関するもの	(2) 研修	①園内研修	テーマに沿った研修をキャリアに応じて、深める。	外部講師を招聘し、ワークショップや園内研修会を実施した。土の改良や保育室の使い方について、内容の濃い研修ができた。	A	A	外部講師から頂いた示唆を自分たちのものにできたか。研修の成果を保育に活かすことができたか。	継続的な教職員研修を通じて、一人ひとりの力量が向上しつつある。一段階上の保育を目指していきたい。
		②園外の研修への参加	今日的課題に関する研修や研究に関心を寄せ、積極的に学習の機会をもつ。	自然を保育に活かした取り組みを進めている。公開保育を活用した幼児教育の質向上を目指すシステム導入に向けて研修を行った。	A		自園の課題や疑問など保育者等が知りたいことに対して参加者から前向きなフィードバック(意見やアドバイス等)をもらえ、自園の幼児教育の質向上が図れるECEQ公開保育に向けて検討したか。	公開保育前から公開保育後のふりかえりまでを園内研修として行うECEQプログラムの5STEPプロセスを利用し、職員の力量向上を目指していきたい。
		③研修成果の普及	個人の研修成果を保育や行事の中で活かし、園全体の教育力の向上を図る。	研修で学んだことを職員が共有し実際の保育に活かすことによって園児が生き生きと活動することができた。	A		研修で学んだ教職員を中心に、内容を保育を見つめなおす機会を持つことができたか。	子どもの活動を通して、見えてきた改善点や反省点を共有し、今後に生かしていくかなければならない。
	(3) 安全管理	①安全計画の立案	保育課程・教育課程とともに危機を想定し、訓練を実施する。	危機管理マニュアルに沿って避難がスムーズに進むよう訓練を実施した。	B	B	本年度は事前に打ち合わせを行い訓練を実施することで、きめ細やかな訓練を実施することができた。	教職員一人ひとりが自分の役割をしっかりと把握し、子どもの危機想定した訓練を実施していきたい。
		②安全指導実施状況と改善策	教職員、園児を対象に、安全指導を行い、確認・改善に努めている。	火災・地震・不審者対応など様々な場面を想定した訓練を実施することができた。	B		状況に応じた訓練を実施することで安全指導の改善を図ることができたか。	園児引き渡しカードを使った園児の引き渡し訓練も計画していきたい。
		③危機管理マニュアル	学園としての危機管理計画に基づき、自園の防災計画を見直す。	危機管理マニュアル及び園の防災計画を見直し、教職員の役割分担を徹底することで緊急の対応ができるようにした。	A	A	教職員がとる行動を想定した、研修を行い、より良い対応ができるよう努める。	教職員が状況に合わせて、一人ひとりが慌てることなく対応ができるように取り組みを進めたい。
		④関係諸機関との連携	警察・消防署・市役所等公的機関との連携を図る。	警察や消防署・火災報知器業者と一緒に安全確認を行うことで連携を深めることができた。	A		消防署員から指導を仰ぎ、心肺蘇生法や緊急時の対応を学ぶことができた。	訓練を定期的に取り入れることで、初期対応について指導を受けることが出来た。今後も関係機関と連絡を密に連携していきたい。

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の観点・理由	課題及び改善
II 学校経営に関するもの	(4) 保健管理	①健康診断の立案と実施(関係機関との連携)	保健所・園医との連携を図る。	園医との綿密な連携の下、園児の健康状態について健康診断を実施し指導を受けた。	A	A	園医による健康診断とスポーツテストによる体力との関連を考察し健康な体作りを進める。	今後も、子ども達と職員が健気に気をつけて生活できるように、園医との連携を密に安全な生活を心がけたい。
		②家庭との連携	流行病や予防策など保健だよりで伝える。	健康元気給食を実施、日々の食を考えるとともに、流行病の予防対策について、手洗い・うがい・消毒等を家庭に呼びかけ、子ども達の健康を守った。	A		流行病による情報や今後の対策などの情報発信を速やかに行い、家庭と協力して安全対策を行うことができた。	インフルエンザやコロナウイルスなど流行病に関する情報について、保護者が安心できるよう情報を迅速に発信したい。
	(5) 地域との連携	①地域との交流	家庭、地域との連携の機会を計画、実践する。	園庭開放を積極的に行なった。市内の幼稚園と和太鼓や園庭遊びで交流を行なった。	A	A	地域との交流により、友だちの輪が広がり地域の中で活動している実感がもてた。	地域の方々や地域の幼稚園との交流を計画し、交流の機会を増やしたい。
		②PTAの活性化	本部役員、クラス役員、各クラブとの連携を強化する。	PTA本部役員の方々に字園会館とリズム室の2カ所でゆっくりくお楽しみ会を企画・運営していただき園児たちは大喜びであった。PTAのクラブ活動やパンDAYも園の行事に組み入れて計画し、連携を強化した。	A		本部役員、クラス委員と園が密接に連携を重ね、PTA活動が充実したものになったか。今後も一緒に活動を続ける。	園の行事内容を早めに保護者に連絡し、計画・準備を行うことで、連携が取りやすい環境を作りたい。
		③幼小・高大連携	今日的課題に向き合い、各校種との連携を深める。	小学校との連絡会を密にした。奈良文化高等学校から120名を超える学生の幼稚園実習を受け入れた。	B		各学校との連絡を密にすることで情報共有を進めることができたか。	就学情報を共有することができた。学生の実習は1年間を通して人数が多い。人数を減らす方法を模索したい。
		④関係者評価の実施	保護者アンケートについてを関係者評価を行う。	3学期に保護者から園の保育内容に関するアンケートを実施し、関係者評価を行った。	A		園教育アンケートの結果をもとに、本園の改善点について指摘していただいた。	保護者会や入園説明会で園の方針や認定こども園の説明を行った。今後も、保護者アンケートを実施し、たくさんの意見をいただきたい。

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の観点・理由	課題及び改善
	(6)施設・設備	①施設、設備の管理	点検をこまめに行い、不備をなくす。	日々、各担任・学年で危機管理を徹底し、安全点検や清掃を行っている。園児の見守りを徹底して行わなければならない。	B	B	園庭や保育室を清潔に保ち、安全な環境を心がけた。一人ひとりが責任をもって安全点検に取り組んでいる。	環境に対する美化意識を持ち、担当場所だけでなく園全体を毎日清潔に維持できるよう取り組む。
		②遊具、用具の活用状況と全体管理	遊具の安全管理を徹底する。	園児が登園する前に、園庭の遊具や砂場の安全点検を行い、修理箇所が見つかったときは、速やかな修繕対応を行った。	B		教職員で点検して業者や園庭管理アドバイザーによる修繕を行っている。園児の安全を第一に、改修に努めている。	遊具使用によるけががないよう職員の危機管理の徹底を行い毎日の安全性を保ちたい。
II 学校経営に関するもの	(7)情報管理	①公文書の収受、保管	分類して、必要な時にすぐ出せる状況にする。	細かく分類して文書を保管するとともに、必要な時に参照することができるようになった。	A	A	ファイルを利用して細目ごとに区別して分類しており、誰もが見やすい文書づくりに努めた。	PCも活用し、効率よい文書作成や文書管理を行い、職員間の情報管理を徹底させたい。
		②公文書の作成	速やかに作成を行う。	期日を厳守することはもちろんであるが、速やかな文書作成を行い対応した。	A		施設型給付費の請求など事務処理を間違うことなく確実に進めることができたか。	今後は、認定こども園運営に関する作成書類について、保護者に丁寧に説明し、正確に処理していくたい。
		③個人情報の管理、保護	個々の子どもの情報、保護者、家族の情報は口外していない。	個人写真をはじめ、個人情報の取扱には細心の注意をはらい、不要な情報が伝わらないよう全教職員が注意した。	A		不特定多数が対象のホームページでは、常に業者と協力し、改良を重ねることができたか。	PCデータにパスワードをつけるなど、職員がセキュリティについて学び、情報管理を徹底したい。
		④情報の収集	園運営上必要となる情報を積極的に収集する。	未就園児行事後のアンケート集計や行事後の取材記事掲載など、情報収集と情報発信を速やかに行なった。	A		バスキヤッチシステムを導入することでスマートフォンからの情報収集・情報発信が可能となつた。	掲載する情報が保護者のニーズに合うよう努力する。PC版と携帯版の差がないよう常に確認を行う。